

作物名：麦類

病害虫名：さび病 黒さび病（病原：Puccinia graminis）  
黄さび病（病原：Puccinia striiformis）  
小さび病（病原：Puccinia horiana）  
赤さび病（病原：Puccinia triticina）



オオムギ小さび病



コムギ赤さび病

### 1 被害の特徴と診断のポイント

さび病に共通した病徴は、葉や茎に鉄さびの色をした、盛り上がった粉質の斑点ができ、のちにそれが黒褐色に変化することである。盛り上がったさび色の粉は夏胞子で、それが集まってできた斑点が夏胞子層である。ムギが成熟するにつれて、夏胞子層のあとや周辺部に、黒褐色の斑点(冬胞子層)ができる。

被害は、穂数と一穂粒数の減少、粒重の低下で、20～30%の減収となる。さらに粒質その他にも著しい影響を及ぼす。

さび病の比較

種類	発生時期	主な発生部位	夏胞子層	冬胞子層	寄主となる麦種 ※
黒さび病	晩期	葉、稈	濃褐色、大型、散在	裸出する	オオムギ、コムギ
黄さび病	早期	葉	鮮黄色、小型、条斑	裸出せず整列	オオムギ、コムギ
小さび病	中期	葉	赤褐色、小型、散在	裸出せず散在	オオムギ
赤さび病	中期	葉	赤褐色、中型、散在	裸出せず散在	コムギ

※オオムギ、コムギに関してのみ記述

### 2 伝染源及び伝染方法

夏胞子と冬胞子を形成する絶対寄生菌である。病原菌は収穫後、こぼれムギに感染して夏を越し、秋に播種されたムギに感染する。そして夏胞子または植物体内で菌糸の形で越冬し、春の第一次伝染源となる。

### 3 発病・伝染好適条件

- ・暖冬で多雨、窒素の多施用により軟弱な生育をしている場合。

### 4 防除方法

#### (1) 耕種的防除

- ・ほ場周辺のこぼれムギを取り除く。
- ・抵抗性品種を作付けする。
- ・適期に播種し、窒素の多施用を避ける。

#### (2) 化学的防除

- ・初発生を確認したら、直ちに薬剤防除を行う。

### 5 出典

- (1) 参考文献：みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針（宮城県）  
農業総覧 原色病害虫診断防除編1（農文協）  
農業総覧 病害虫防除資材編1（農文協）  
植物防疫 第73巻第2号:44-50（日本植物防疫協会）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

(2021年3月改訂)